

伸・魅力通信

「根っこ」「土台」「出口の姿」を確認した幼小中一貫教育研修会(その4)

幼小中一貫教育研修会のアンケートと「カリキュラム活用シート」に記入した「次に自分が取り組みたいこと」の一部を紹介します。

袋井あやぐも学園幼小中一貫教育アンケート

パネルディスカッションに参加して、幼小中のつながりを見いだすことができましたか



これからの自分の取組は明確になりましたか



この研修は、校種間の理解や幼小中一貫教育への理解を深めるために有意義でしたか



袋井あやぐも学園の取組の方向性を理解することができましたか



0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

- 他のクラスの先生方との話から「基本的環境整備」「合理的配慮」について学んでいきたい。
- ボイスシャワーに的を当てたクラスだよりを発行し、ドキュメンテーションを続けて、幼稚園と家庭で子供の成長を支えていきたい。
- もう一度、子ども理解から始め、「何が原因なのか」「どこが苦手
で何が好きなのか」を教師が理解したい。
- 学年日報で「聞く指導」の徹底をお願いしている。学年全職員
同一歩調で取り組んでいきたい。
- 「何がすごいのか」「何に対して感謝しているのか」等を明確に
してボイスシャワーを掛けていきたい。
- 「当たり前」を称賛して規範意識を高め、「今日も楽しかった」
「明日も学校に行きたい」と思える1日の終わりをつくりたい。

- あいさつを含めて、心づくりの目指しているものをもっと校内に発信していきたい。
- 朝の会帰りの会の説話で「聞く指導」の徹底、価値ある行動に対するボイスシャワーで規範意識の醸成、目標やルール決め等の自治的な活動で問題解決能力の育成をしていきたい。
- 1日の見通しがもてて、友達やクラスの良さを認められる朝の会と帰りの会にしていきたい。
- 遊びの環境を整える。教師の押さえをもちながら、子どもの実態に応じて子どもと一緒に環境(道具の準備・片付け)を作っていく。
- いろいろな遊びを子どもに紹介して、すき間時間を作って子どもと一緒に遊んでいきたい。
- どの子どもも体を動かすことに前向きになるよう、子ども同士が教えあう場の設定をしたり子どもの思いに寄り添った支援をしたりしていきたい。
- より効果的な家庭学習について考え、反転授業を仕掛けていきたい。
- ○○先生が実践されていた「プロセスをほめる」ことを実施していきたい。
- 「声掛けとボイスシャワー」「協働場面の設定」「主体的な学びの仕掛けと工夫」で Iを伸ばして Weの世界を広げる授業を作っていく。
- 「クラスのために働いてよかった」と思えるように、「帰りの会で認め合える場」を設定したり「ニコニコカード」や「ひみつの3人」を仕掛けたりしたい。
- 子どもが考えて行動するために「なぜ」を一緒に考えていきたい。例えば、「なぜ、これをやるのか」「なぜ、これをやってはいけないのか」など。
- 授業の最後5分間で、「学んだこと」「分かったこと」「分からなかったこと」を振り返る時間を取りたい。